

令和2年7月30日（木曜日）

議員参立足

大分の被災地視察 道路強靱化の必要、改めて実感

自民党の足立敏之参院議員は、2020年7月豪雨に見舞われた大分県内の被災地を23日視察した。大分県建設業協会の友岡孝幸会長らの案内で復旧対応に追われた日田支部（河津龍治支部長）を訪ね、玖珠川（筑後川水系）の増水で道路が洗掘、流出した国道210号の状況などを見て回った。日刊建設工業新聞の取材に足立氏は「道路の強靱化の必要性を改めて感じた」と話した。

視察には国土交通省九州地方整備局の村山一弥局長らも途中まで同行した。日田支部では支部会員らによる被害への対応状況を聴取。12、17年と今回の豪雨を経験している同支部は体制を整えてスムーズに対応するなど「地域から信頼さされている状況を伺うことができた」（足立氏）とした。日田市内の天ヶ瀬温泉では「玖珠川沿いの温泉街で2階部分まで浸水している状況が見られ、トラス橋や

人道橋のつり橋も落橋していた」様子を視察。約100メートルにわたって洗掘した国道210号では「地元業者の皆さんが24時間態勢で復



旧に尽力していた」という。山間部にある由布市の湯平温泉では街中を流れる花合野川が氾濫し、川沿いの旅館も大きな被害を受けた。川の中に岩塊が転がっており足立氏は「被害の激甚さを痛感した」と述べた。

視察を終えた足立氏は、公共事業の見直しで直轄の獅子牟田ダムを中止した経緯に触れ「改めて必要性を考えなければならぬかもしれない」と指摘した。

日田市内の被害状況を見て回った（足立敏之事務所提供）